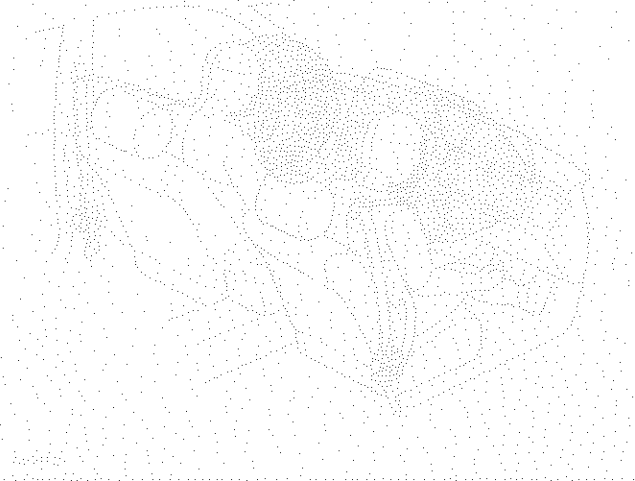


4 SRSエアバッグ

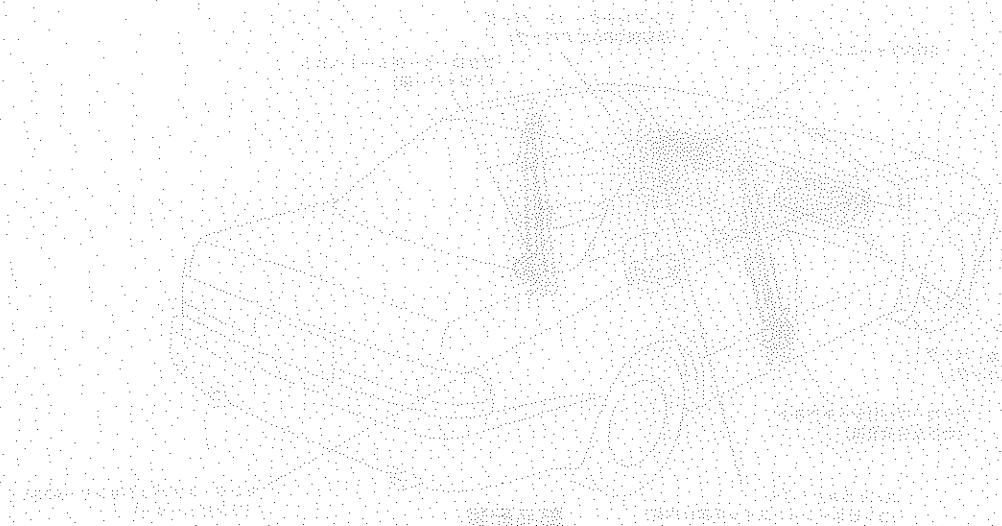
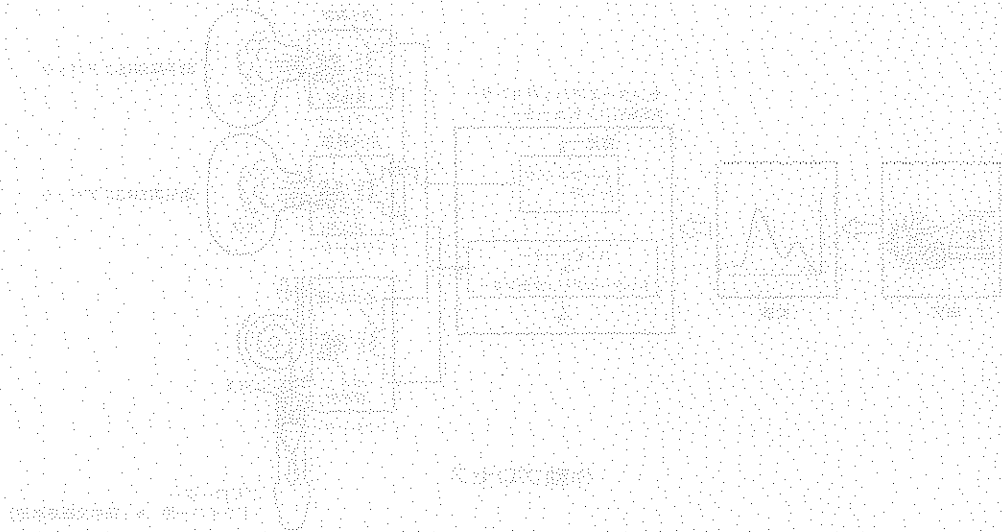
4・1 SRSエアバッグ・プリローダー付

シートベルト… 4-2



この車には、運転席と助手席の2つのSRSエアバッグが標準装備されています。また、後部座席にもSRSエアバッグが標準装備されています。SRSエアバッグは、衝突時に自動的に膨らみ、乗員を保護します。SRSエアバッグは、シートベルトと併用して使用してください。SRSエアバッグは、衝突時に自動的に膨らみ、乗員を保護します。SRSエアバッグは、シートベルトと併用して使用してください。SRSエアバッグは、衝突時に自動的に膨らみ、乗員を保護します。SRSエアバッグは、シートベルトと併用して使用してください。

この車には、運転席と助手席の2つのSRSエアバッグが標準装備されています。また、後部座席にもSRSエアバッグが標準装備されています。SRSエアバッグは、衝突時に自動的に膨らみ、乗員を保護します。SRSエアバッグは、シートベルトと併用して使用してください。SRSエアバッグは、衝突時に自動的に膨らみ、乗員を保護します。SRSエアバッグは、シートベルトと併用して使用してください。



4

4・1

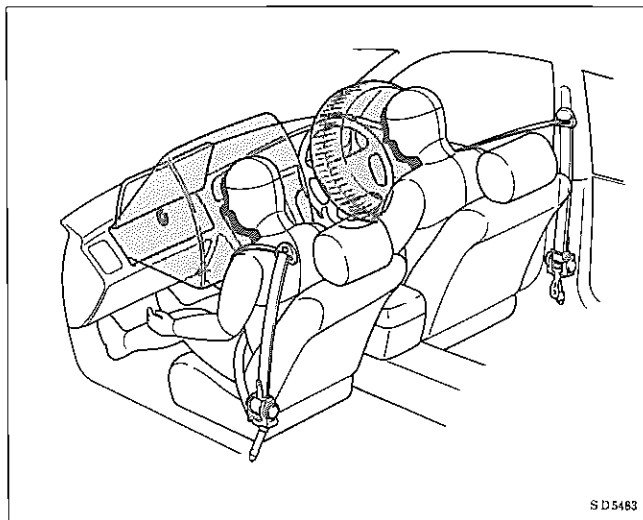
SRS*エアバッグ

■概 要

SRSエアバッグ・プリローダー付シートベルトに助手席側SRSエアバッグを追加しました。また、システムの一部を変更して、インフレーターの点火をコンピューターにより判定する方法のみとしました。これにより、フェンダー部のフロントエアバッグセンサーを廃止しました。

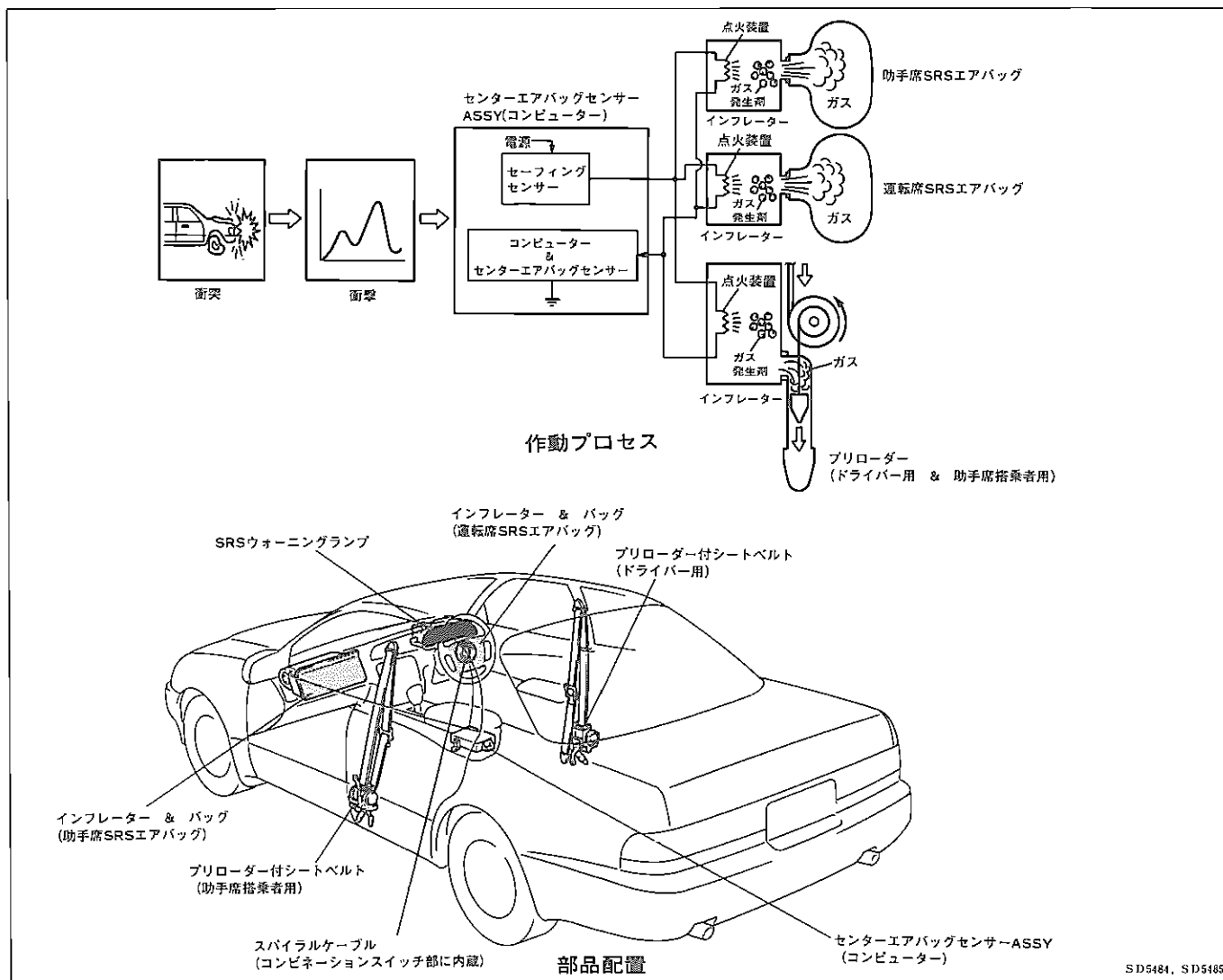
システムは従来と同様、ダイアグノーシス機能によりシステムに万一異常が発生した場合はこれを検出しSRSウォーニングランプを点灯させます。

SRSエアバッグ・プリローダー付シートベルトは、Bタイプ、Cタイプ、i-Fourグレードに標準設定、AタイプS、CタイプSグレードにオプション設定しました。



SD5483

*SRS : Supplemental Restraint System (サブリメンタル リストレイント システム) の略で乗員保護補助装置のことを示す。



主要構成部品と機構

構 成 部 品	機 能
スパイラルケーブル	センターエアバッグセンサーASSY（コンピューター）からの点火電流をインフレーターに伝達する。
インフレーター	バッグに展開させるためのガスを瞬時に発生させる。
バッグ	インフレーターからのガスにより瞬時に膨らみ、バッグ背面およびバッグ側面に設けた排出孔によりドライバーおよび助手席搭乗車への衝撃を吸収します。
プリローダー付シートベルト	インフレーターを内蔵し、インフレーターからガスによりシートベルトを巻き取り、シートベルトの機能を一層高めます。
SRSウォーニングランプ	ランプを点灯し、システムの異常をドライバーに警告する。
センターエアバッグセンサーASSY (コンピューター)	衝突時の減速度を検出する。センターエアバッグセンサーとセーフィングセンサーからの信号によりバッグを展開させるか否かを判定しインフレーターへの電流をONする。ダイアグノーシスモードに切り替えることにより、異常箇所の結果診断をする。

■機構説明

1. SRSエアバッグ・プリローダー付シートベルト

●このシステムは上の表の部品から構成されています。以下に各構成部品の構造と作動について説明します。

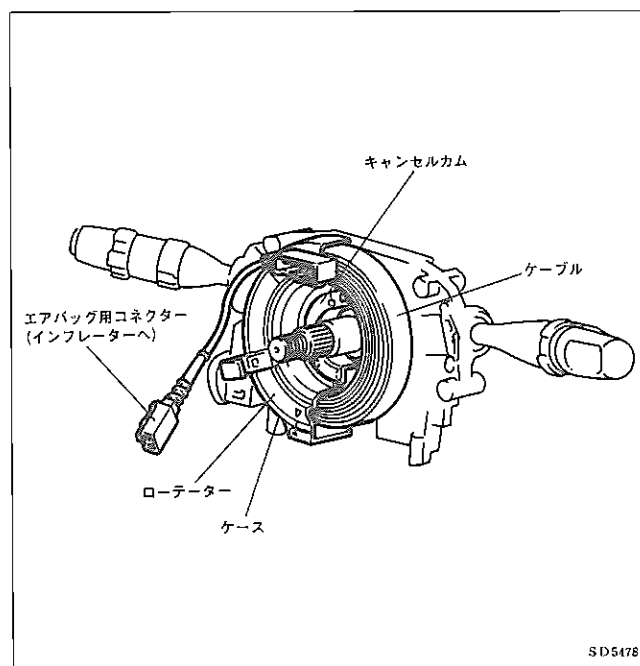
▶構造と作動

【1】主要構成部品の構造・作動

〔1〕スパイラルケーブル

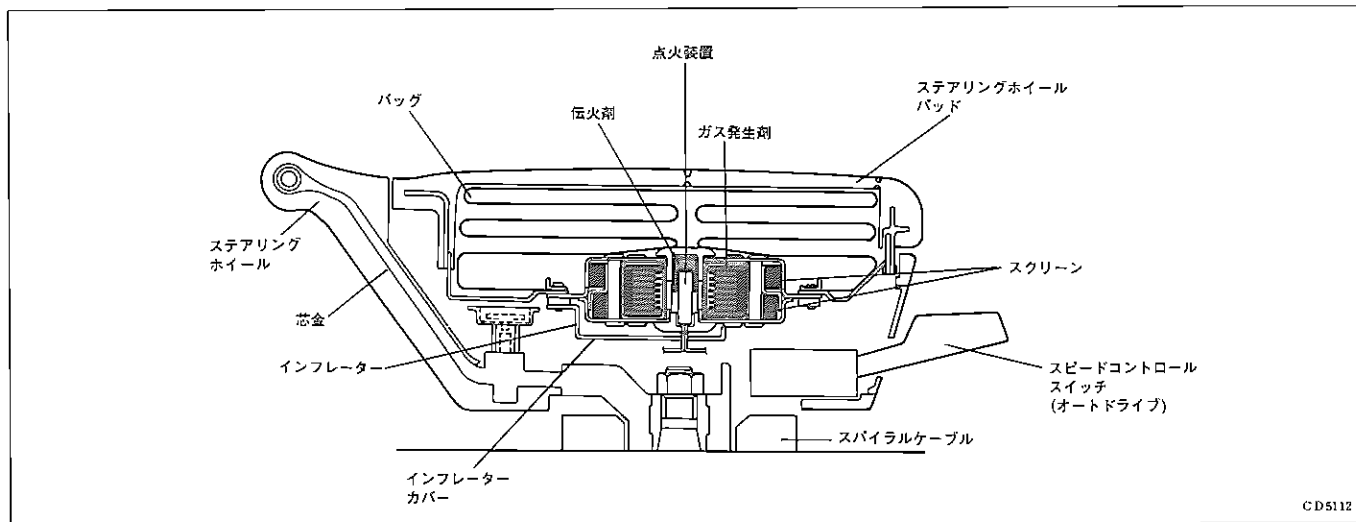
従来と同様、無接点式とし、ローテーター、ケース、ケーブルおよびキャンセルカムなどで構成されています。

- (注) 1. スパイラルケーブルのニュートラル位置がずれた状態で組付けを行うと、ケーブル断線などの不具合が発生する恐れがあります。車両整備時は修理書を参考の上、正しい組付けを行ってください。
2. スパイラルケーブルをはずした状態でイグニッションスイッチをAACまたはONにすると後述のダイアグノーシス機能により、故障と判断されダイアグノーシスコードが記憶されてしまいますので注意してください。



〔2〕運転席SRSエアバッグASSY

インフレーター & バッグはステアリングホイールパッドに内蔵され非分解式となっており、インフレーターは、点火装置（フィラメント、点火剤）伝火剤、ガス発生剤、などで構成されて、バッグは、容量約60ℓのナイロン製で表面にゴムコーティング処理されバッグ背面に2個の排出孔を設けています。インフレーターは従来と同じです。



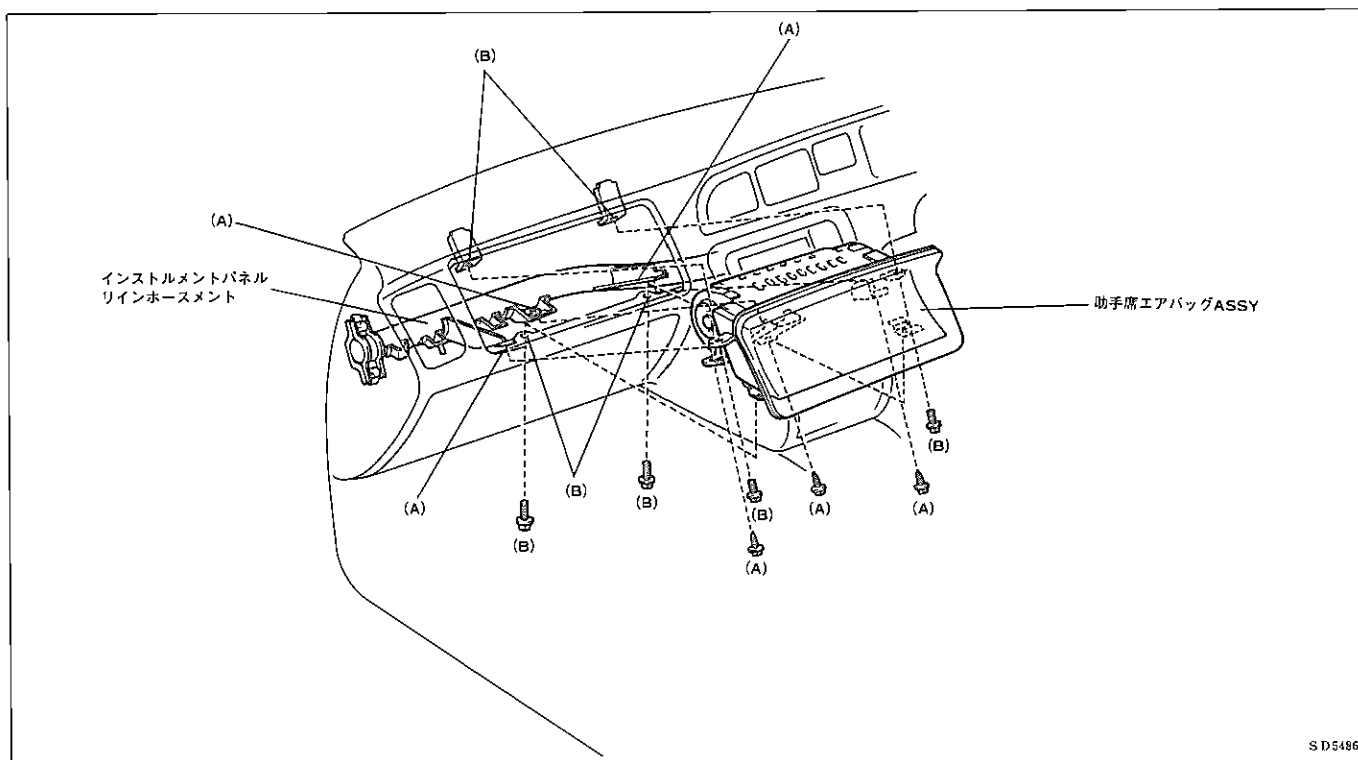
CD5112

〔3〕助手席SRSエアバッグASSY

インフレーター、バッグ、セーフティパッドドア、ケースなどで構成されています。なお助手席SRSエアバッグASSYは非分解式となっています。

(1) 取り付け位置

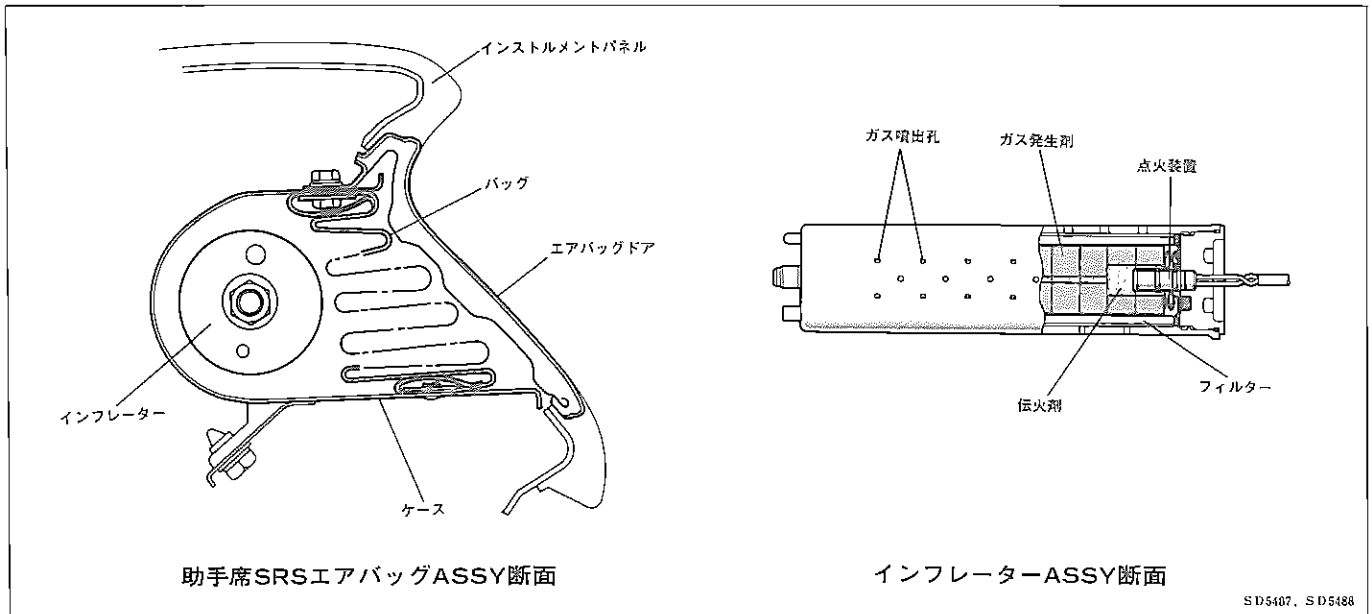
助手席SRSエアバッグASSYは、インストルメントパネルリインホースメントに設けたブラケットに3本のボルト(A部)で固定し、さらにインストルメントパネル本体にボルトにより4箇所(B部)を固定しています。なお、詳しい脱着方法は、修理書を参照してください。



SD5486

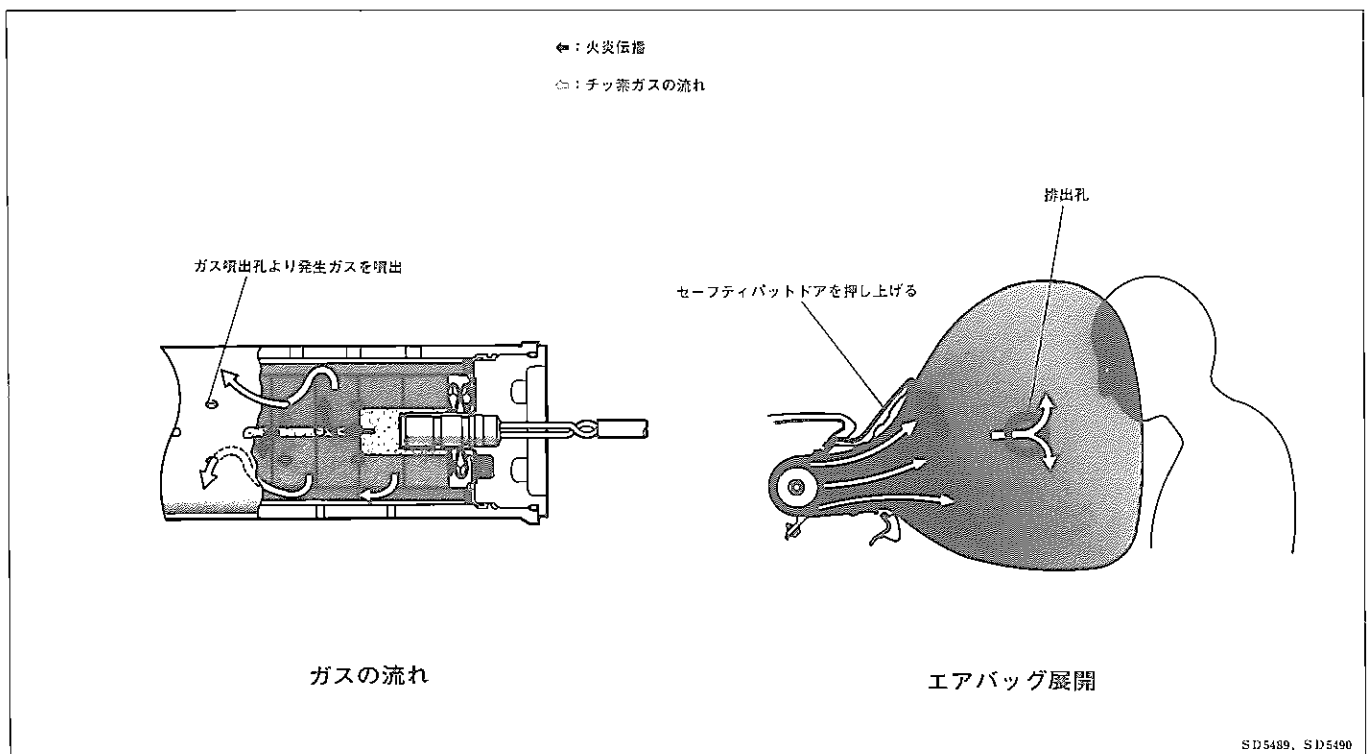
(2) 構造

基本的な構造は運転席SRSエアバッグと同じで、インフレーターは、点火装置（フィラメント、点火剤）、伝火剤、ガス発生剤などで構成されています。これらの部品は、円柱形の金属容器に内蔵され、内部をシールして、完全密封構造としています。バッグは、ナイロン製で、インフレーターとともにインストルメントパネル部のグローブボックス上部にケース、エアバッグドアと一体構造として、収納されています。バッグ展開時の容量は約120ℓです。



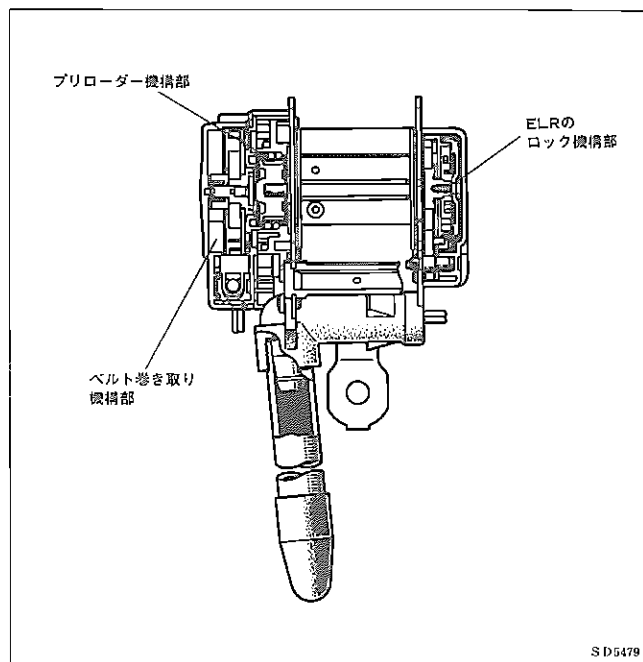
(3) 作動

運転席SRSエアバッグと同様、衝突による減速度によりエアバッグセンサーONして、点火装置に通電され点火し、伝火剤、ガス発生剤へと極めて短時間で火災が伝播しガスが発生して、バッグ内に充満します。そしてバッグはエアバッグドアを押し上げて展開し助手席搭乗者への衝撃を緩和します。



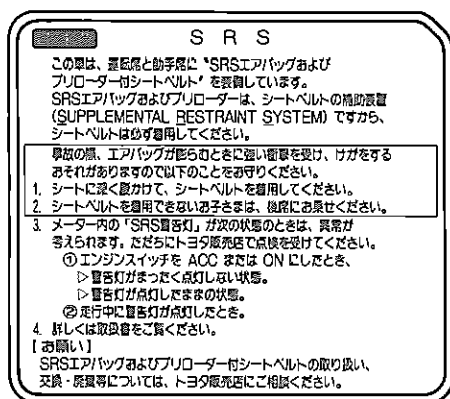
〔4〕プリローダー付シートベルト

- プリローダー付シートベルトは、ELRのロック機構部、プリローダー機構部、ベルト巻き取り機構部およびインフレーターを内蔵したシリンダーなどで構成されています。
- 構造・作動は従来と同様です。

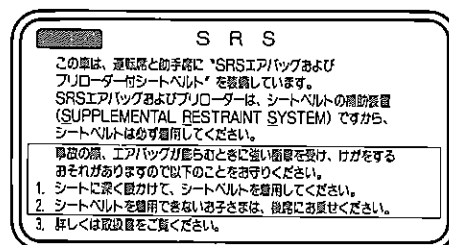


〔5〕SRSエアバッグ・プリローダーコーションプレート

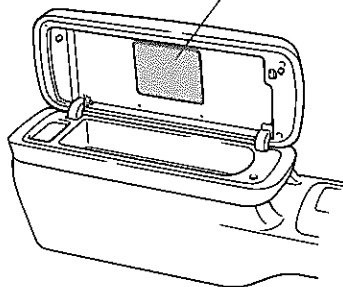
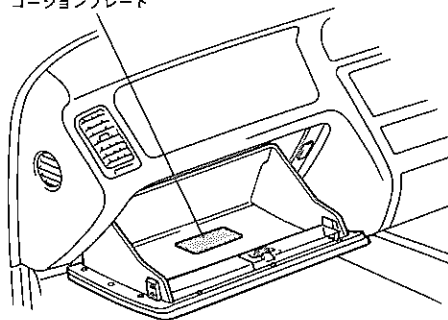
センターコンソールドア裏側、グラブドア裏側にSRSエアバッグ・プリローダーコーションプレートを貼付しました。



センターコンソールドア裏側



グラブドア裏側

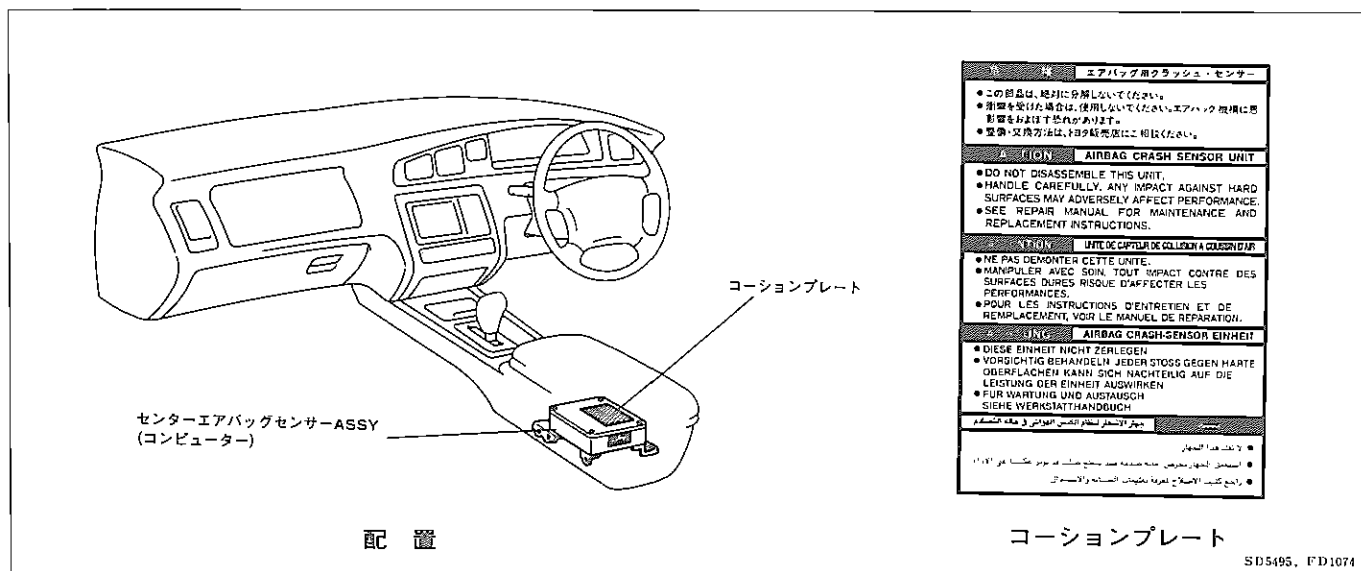
SRSエアバッグ・プリローダー
コーションプレートSRSエアバッグ・プリローダー
コーションプレート

配 置

SD5491, SD5492, SD5493, SD5494

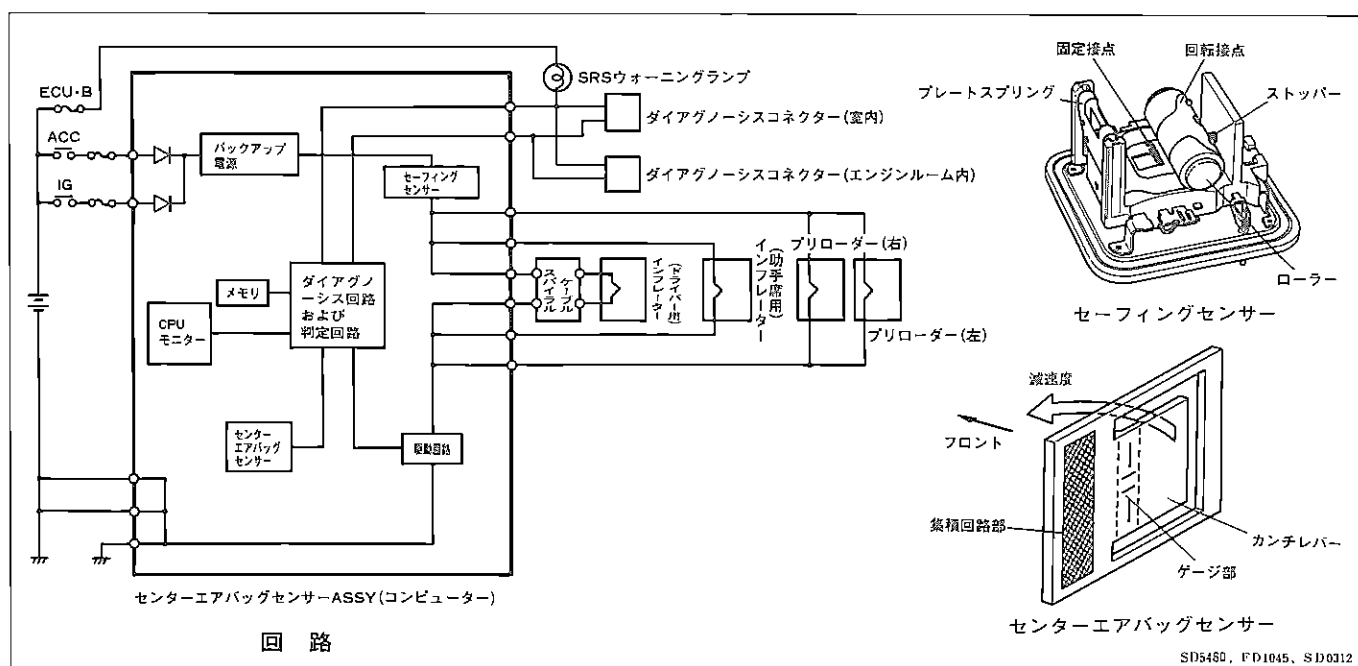
〔6〕 センターエアバッグセンサー-ASSY (コンピューター)

- センターコンソール下側のフロアに取り付けられています。センターエアバッグセンサー-ASSYに内蔵されたエアバッグセンサーより、エアバッグを作動させるか否かを判定するとともに、システムに異常があるかどうかの自己診断を行います。
- センターエアバッグセンサー-ASSYは、助手席SRSエアバッグの追加、およびフロントエアバッグセンサーの廃止にともない、ダイアグノーシス関係を変更しました。
- センターエアバッグセンサー-ASSY上面にコーションプレートを貼付しました。



(1) 構造

- センターエアバッグセンサー-ASSY (コンピューター) は、従来からの構成と同様、センターエアバッグセンサー、点火判断回路、セーフィングセンサー、バックアップ電源、診断回路、メモリー回路、および安全回路などがあります。
- 従来と同様、セーフィングセンサーにローラーと固定接点を使用したメカニカル式センサー、センターエアバッグセンサー (Gセンサー) に加速度の大きさに応じてリニアな電気出力が得られる半導体式センサーを使用しています。

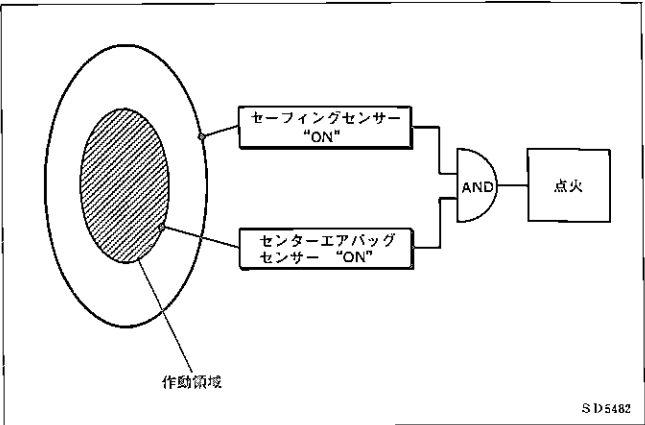


【2】システム作動

〔1〕点火判定と条件

あらかじめ設定した以上の衝撃が加わった場合、エアバッグが作動します。

点火条件は右図のようにセーフィングセンサーとセンターエアバッグセンサーが同時にONした時、点火装置に電流が流れ、点火します。

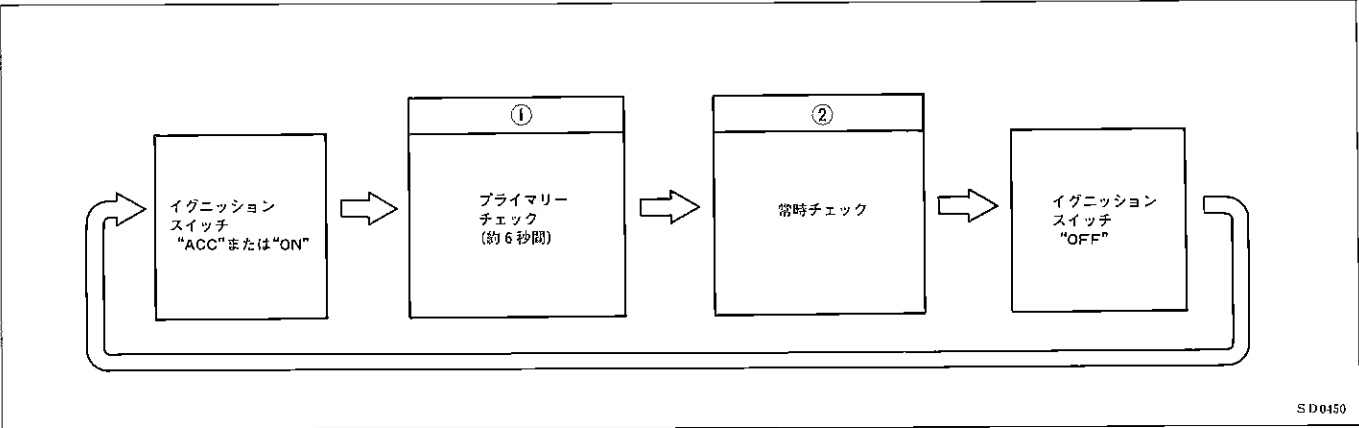


〔2〕ダイアグノーシス機能

（1）診断回路

診断回路は、従来と同様、①プライマリーチェックと②常時チェックにより故障診断を行っています。

①プライマリーチェック、②常時チェックとも、その内容は従来と同様です。



（2）ダイアグノーシスコードの呼出し

- ダイアグノーシスコードの呼出しは、従来と同じくイグニッションスイッチをACCまたはON状態で、ダイアグノーシスコネクターのT_c端子を短絡することにより行い、SRSウォーニングランプの点滅によりコードNoを表示します。
- 診断コードは、助手席側エアバッグの採用にともない、診断項目を追加しました。またフロントエアバッグセンサーの廃止により診断項目を削除しました。

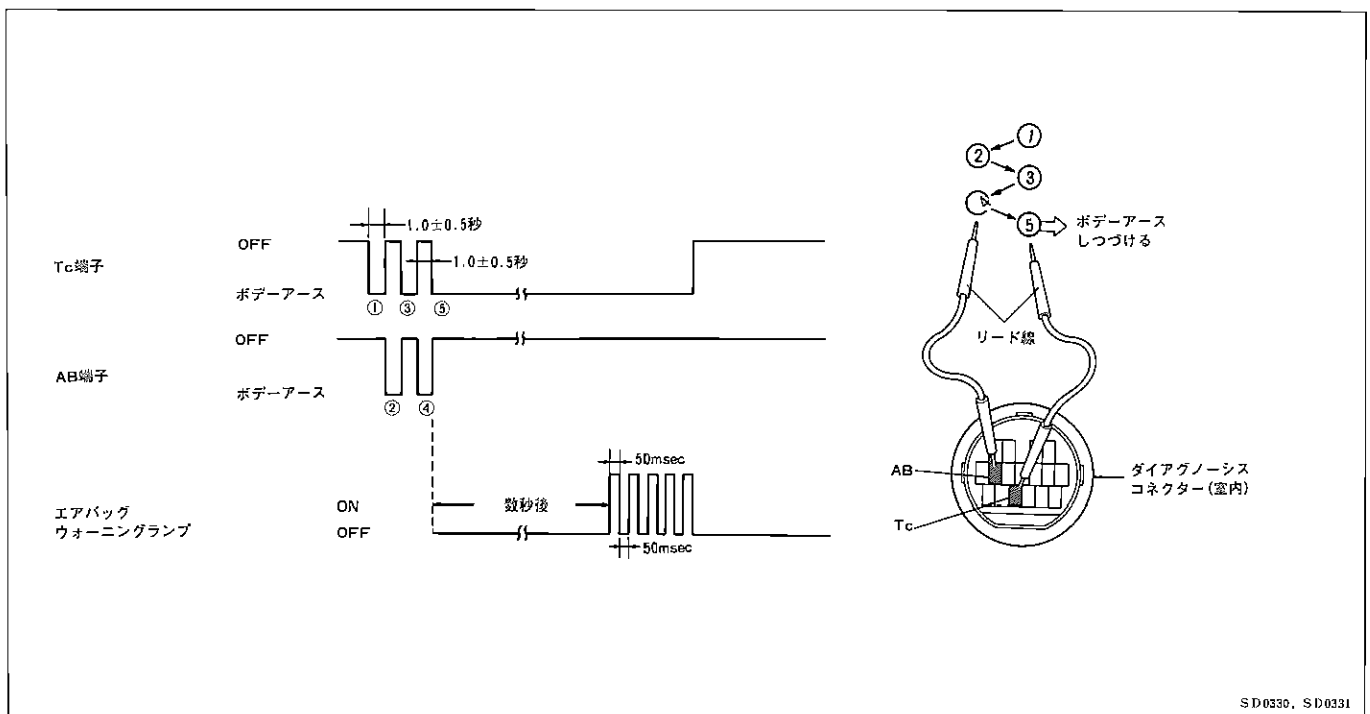
コード No	診 断 結 果	不 具 合 箇 所	コード No	診 断 結 果	不 具 合 箇 所
1	電源電圧の低下	・バンテリー ・W/H	31	センターエアバッグセンサーASSYの故障	・センターエアバッグ センサーASSY
11	点火装置W/Hショート（アース）	・W/H	53	エアバッグ点火装置ショート（助手席用）	・点火装置 ・W/H
	センターエアバッグセンサー系常時ON	・センターエアバッグ センサーASSY	54	エアバッグ点火装置断線（助手席用）	・点火装置 ・W/H
12	エアバッグ点火装置W/Hショート（電源）	・W/H	63	助手席プリローダー点火装置ショート	・点火装置 ・W/H
13	エアバッグ点火装置ショート（ドライバー用）	・点火装置 ・W/H	64	助手席プリローダー点火装置断線	・点火装置 ・W/H
14	エアバッグ点火装置断線（ドライバー用）	・点火装置 ・W/H	73	ドライバープリローダー点火装置ショート	・点火装置 ・W/H
22	SRSウォーニングランプ系統の断線	・バルブ ・W/H	74	ドライバープリローダー点火装置断線	・点火装置 ・W/H

(3) 記憶コードの消去

次の操作を行うと、すべての記憶コードを一斉に消去することができます。ただし、記憶コードが消去されますので、必ず(2)のダイアグノーシスコードの呼出しを実施し、コードNo.を確認した後、消去作業を行ってください。

- ① ダイアグノーシスコネクタのT_c端子とAB端子にリード線を接続する。
- ② イグニッションスイッチをACCまたはONにする。
- ③ 最初にT_c端子側から1秒間隔で、T_c端子とAB端子を2回ずつ交互にボデーアースし(一方のボデーアース解除と同時に、もう一方をボデーアースする。)最後にもう一度ボデーアースする。

数秒後に、SRSウォーニングランプが約50msec間隔で点灯しはじめれば消去完了です。(T_c端子のボデーアースを解除すれば、SRSウォーニングランプは消去します。)



MEMO